

漢字が読めるということで、変な優越感をもつ心配はないか。また、小学校で、そのために疎んぜられる心配はないか。

幼稚園で漢字を覚えたために、小学校に進んでから、漢字学習をばかにすることはないか、という心配は、最も多く聞かされるお母さん方の心配です。

しかし、それは杞憂です。なぜかと言いますと、幼児は、その本性として、得意なものほど、心をこめて学習するものだからです。

不得意なものほど一生懸命に努力すべきものではありませんが、実際は、おとなでも、不得意なものは練習してみようとしません。反対に、練習する必要などないほどよくできるものを夢中でやりたがります。

道理のわかったおとなでさえそうですから、道理のわからない子供が、不得意なものをせず、得意なものばかり熱心にやるのは、当たり前のことと言わなければなりません。

だから、子供を、小学校で熱心に漢字学習をするようにしたかったら、小学校へ入学する前に、漢字学習をさせて、子供の漢字力を高めておくことが必要です。小学校で、漢字を書く練習をさせますと、最も熱心を書く子は、最もよく書ける子供であり、最も不熱心なのは、決まって最も不得意な子供です。

ただ、まれに、よくできるという優越感から、できない子供を見下し、学習を疎かにする子供があります。これは、子供の指導に手落ちがあ

ったため、親の責任です。

得意なものはど一生懸命にやるはずのものを、怠るというのは、そもそも普通ではありません。そういう子供にするには、親がよほど悪い扱いをしたはずで

親としては、どの子供でも生まれながらに持っている、“得意なものに熱中する”精神をいよいよ育てるように気を使い、自分より能力の劣ったものに対しては、軽蔑することなく、思いやりをもって接する子供に育てることに努力しなければなりません。

そうすれば、小学校に進んで、先生に疎んぜられる心配も決してありません。できすぎるから疎んずるという先生はありません。できるという優越感をもって、他を見下し、授業中勝手気ままなふるまいをするから、先生に疎んぜられるのでしょう。

できても、謙虚で慎み深く、思いやりのある子供だったら、どうして疎んぜられることがありますか。

